

# 普及情報

## 安全安心なキャベツを柱とした野菜産地の育成

### はじめに

明石市の主要農産物であるキャベツは、ハスモンヨトウ、オオタバコガの被害が多く、主として農薬に頼った防除が行われてきた。

普及センターでは農薬に頼りすぎない野菜産地の育成をめざして、これまで黄色蛍光灯によるヤガ類防除を推進してきた。防除効果は高いものの、電源の確保や周辺民家への光害が懸念され、育苗床での普及にとどまった。

そこで新たな技術として2005年から2007年にかけて、複合性フェロモン剤「コンフューザーV（かくらん 交信攪乱剤）」による防除効果と普及性について検証を重ねていくことになった。

### 大きな面積で実証活動を展開

本技術は、雌が雄を呼び寄せる性フェロモンを充満させ出会いを攪乱することで、食害を起こす幼虫の発生量を少なくするというもので、最低でも3 ha以上の広い面積で囲い込む必要がある。そのため、野菜の作付けがまとまっている魚住町長池地区で実証を行った。



図 打合せを兼ねた設置準備の風景

### 産地あげての取組へ誘導

本技術の効果が発揮できるよう生産農家や関係機関の入念な打合せを重ねていった。フェロモン剤の設置作業は野菜部会の役員を中心に関係機関が協力して実施した。

試験1年目はフェロモン剤の効果に対する過信から防除が後手に回ったこと、また、オオタバコガに対応した成分が予想より早く切れレタスで、かなりの実害を出してしまった。

地元への成績説明会では生産者から「現場を試験場にしないでくれ」「フェロモン剤が逆にオオタバコガを寄せているのではないか」など厳しくも真摯な意見が出された。2年目からは交信攪乱剤の設置時期、面積、発生予察場所の検討、未交尾雌による交尾率調査や発生予察・被害調査の速報による適期防除の実施などの改善に努めた。

その結果、2007年には他地区でハスモンヨトウの発生が多かったが長池地区では抑制されたこと、速報に基づく適期防除が実行されたことで被害が軽減できた。

最初は懐疑的であった生産者からも調査巡回中に「ご苦労さん。フェロモン効いてるみたいやな」などの声をかけられるようになった。

### 産地の変化

3年間にわたる実証活動を通じて生産者の農業に頼らない防除技術への理解が高められた。2006年にはレタスで、2007年にはキャベツ、ブロッコリーでひょうご食品認証を取得することができ、安心安全を追求する野菜産地像が見えてきている。

若狭 直史（明石農業改良普及センター）  
（問い合わせ先 電話：078-946-0616）

ひょうごの農林水産技術 No.158

平成20年7月1日（隔月刊）

兵庫県立農林水産技術総合センター（0790）47-2400